

地域の経済動向（令和4年10～12月期） 《オホーツク地域》

1 経済動向に係る企業等の声（10～12月期）

【建設業】

【製造業】

- ・人出不足が深刻な中、サケ水揚げが最盛期を迎え、外国人労働者を雇用したがコミュニケーションが難しく、対応に苦慮している。（水産加工業）
- ・原材料等価格上昇に販売価格が追いつかない。（セメント製造業）
- ・コロナ禍により、これまで通販向けの商品開発などを行ってきており、少しずつではあるが、観光客の回復もしているため、新たな販売手法として自販機による販売方法を検討している。（水産加工業）
- ・秋サケの水揚げが好調であった反面、加工に必要な人手が不足しており、漁協からの依頼に対し満足に対応出来ない状況にある。（水産加工業）

【卸売・小売業】

【運輸業】

- ・バス運転手、整備士、清掃員などが不足し、時間外勤務や公休日の出勤などが増えてきている。業界全体で人手不足が顕著。（運輸業）
- ・乗務員不足のため、流氷観光の繁忙期に貸切バスがフル稼働できない恐れ。（一般貸切旅客自動車運送業）
- ・燃料費が高騰する中で、荷主側の賃上げが期待できず、利益減少が懸案。
- ・行動制限もなく、どうみん割や各種応援クーポンの影響もあってか、コロナ前ほどではないが貸切バスの稼働状況などから、観光客が戻りつつあることを実感している。（運輸業）

【サービス業】

- ・パートタイム労働者の求人を出しているが、全く応募がない。このままでは最盛期に機会ロスが生じかねない。（飲食業）
- ・特に食用油の値上がり負担。客足が回復しない中で価格転嫁のタイミングが難しい。（飲食業）
- ・ビジネス利用による長期滞在が多く、宿泊客や稼働率は上昇傾向にある。一方で、インバウンドも含め観光客の利用は少なく、街中でもほとんど見かけない状況。原材料高騰の影響により宴会料理の価格を2割程度値上げせざるを得ないなか、料理の質は落とさないよう努力しているものの、値段が上がれば料理も良くなるというイメージがあるため、利用者から残念がられる声が多い。ちなみに、ホテル全体の売上のうち7割が宴会利用のため影響は大きい。（宿泊業）
- ・外国人旅行者減少の影響により、道の駅に併設しているアンテナショップでは売上が1割程度減少している。ただし、個人利用客が多いことやECサイト、ふるさと納税などの取り組みにより、大きな落ち込みにはなっていない。一方、女満別空港に併設しているアンテナショップでは、空港利用者の落ち込みにより、売上が2割以上減少している状況にある。（サービス業）

【関係機関・団体】

- ・飲食関係の店舗は原材料高騰の影響もあり価格転嫁を進めたいが、人流が戻らない中で、むやみに価格転嫁に踏み切っていいものか苦悩しているという話がある。（連合会）
- ・役場や漁協など町の主な団体において忘新年会は自粛ムード。そのような状況を受け、町内の飲食店では、ランチ営業にシフトするなどして何とか売上を維持している。（商工会）
- ・燃油の高騰は町内の全業種に影響を及ぼしている。特に特産品であるチーズは、元々安い商品ではなく配送料の値上がりで打撃を受けており、これ以上の価格転嫁は困難であると聞いている。（商工会）

2 道内金融機関から見た地域景況感 (10~12月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

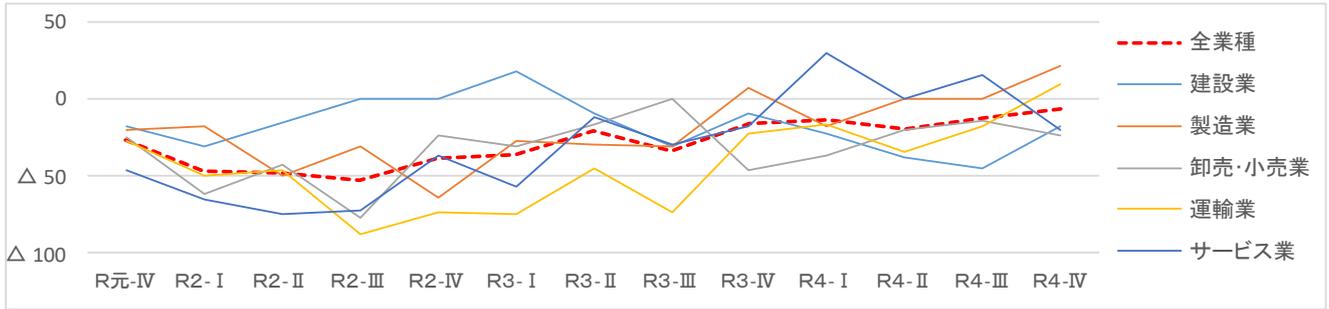
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
網走信用金庫				当金庫で行った業況調査の結果、製造業・建設業の業況判断 DI が改善しており、生産動向を「普通」とした。一方サービス業の DI が悪化しており、卸・小売業の DI も改善が見られないことから、消費動向を「低調」とし、総合を「やや低調」と判断した。		次期の業況見通しについて、全業種で DI がマイナスであるため、「下降傾向」と判断した。
遠軽信用金庫				遠軽地方の生産動向の景況感については、前年同期と比較すると、製造業以外の業種で収益が減少し、厳しい状況が続いていることから、「やや低調」(前回調査時: やや低調)と判断した。遠軽地方の消費動向の景況感については、前回調査時と比較し、全ての業種で業況判断 DI が悪化し、厳しい状況が続いていることから、「やや低調」(同: 普通)と判断した。生産動向及び消費動向共に、新型コロナウイルスや物価高騰等の影響により、依然として厳しい状況が続いていることから、遠軽地方の総合的な景況感は、前回調査時同様の「やや低調」と判断した。		次期の景況見通しについては、新型コロナウイルスや物価高騰等の影響により、多くの企業が先行き不透明で、業況の回復に時間を要すると考えられることから、「変わらない」と判断した。
北見信用金庫 (北見地区)				当金庫の景況動向調査によると、前年同期と比較した売上 DI は△9 となり、収益 DI は△21 となった。前回調査時から売上 DI は 10 ポイント、収益 DI も 3 ポイント悪化したことから、「やや低調」とした。		当金庫の景況動向調査によると、次期の見通しでは、売上 DI、収益 DI ともに悪化する見通しとなっている。
北見信用金庫 (紋別地区)				基幹産業である漁業が最盛期なことから、水産関連会社を中心に生産動向活況となっている。特に主力であるホタテ漁が好漁であること、近年不漁であった秋サケ漁が好漁となったことから、生産動向については「好調」とした。また、労働力の高齢化、外国人実習生の減少等、人手不足感は依然としてあり、今後の課題となっている。消費動向については行動制限解除や地域クーポン券の発行等、上向きな状況であることから「普通」とし、総合的に「やや好調」とした。		流氷シーズンによる観光客増加が期待されるものの、基幹産業である漁業の閑散期であることから、全体として景況見通しを「下降傾向」と判断した。

【景況感の推移】

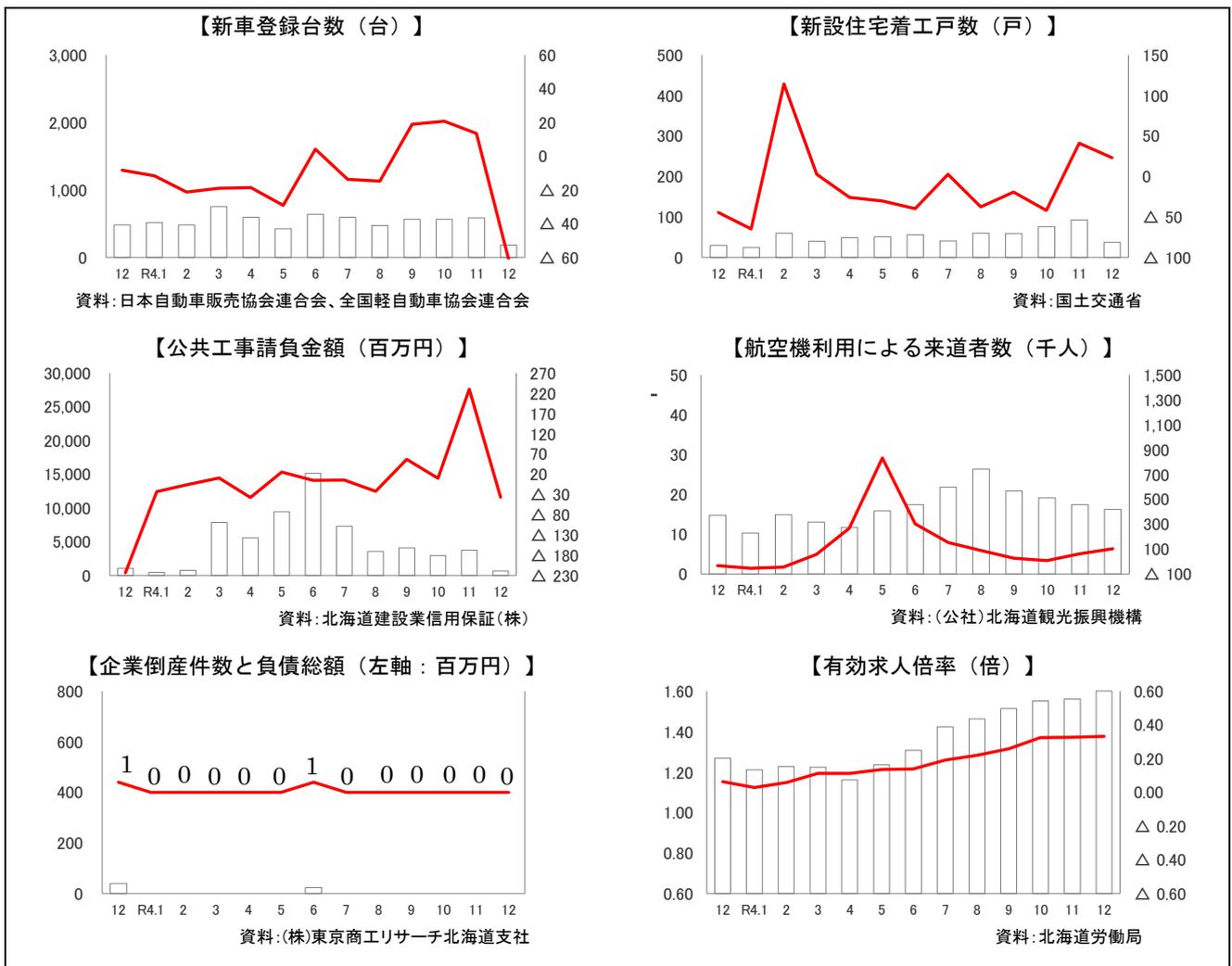
	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV	R4- I	R4- II	R4- III	R4- IV
網走信用金庫								
遠軽信用金庫								
北見信用金庫 (北見地区)								
北見信用金庫 (紋別地区)								

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III	R4-IV
全業種	△ 27	△ 46	△ 48	△ 53	△ 38	△ 36	△ 21	△ 33	△ 16	△ 13	△ 19	△ 12	△ 6
建設業	△ 18	△ 31	△ 15	0	0	18	△ 9	△ 30	△ 9	△ 22	△ 38	△ 45	△ 18
製造業	△ 20	△ 17	△ 50	△ 30	△ 64	△ 27	△ 29	△ 30	8	△ 18	0	0	22
卸売・小売業	△ 25	△ 62	△ 43	△ 77	△ 23	△ 31	△ 16	0	△ 46	△ 36	△ 20	△ 14	△ 23
運輸業	△ 27	△ 50	△ 46	△ 88	△ 73	△ 75	△ 45	△ 73	△ 22	△ 16	△ 34	△ 18	10
サービス業	△ 46	△ 65	△ 74	△ 72	△ 36	△ 57	△ 11	△ 29	△ 18	30	0	16	△ 20

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)